

小カブのカルテック施肥例

(10アール当り)

地力作り	<p>なるべく早めに。播種までに30日以上おいて下さい。</p> <p>※堆肥が未熟なまま残存すると、カブの品質が悪化し、肌が荒れます。ラクト・バチルス添加によって、土中の堆肥・有機物は醗酵状態に変わりますから、カブの作付け前に堆肥を投入できますが、30日以上(なるべく60日)間隔をおいてください。</p> <p>周年栽培の場合は年1回の地力作り。硫酸・カルシウムは毎回施肥。</p>	<p>堆肥 2トン (なるべく多く) ※堆肥・有機物が無い場合は、米ヌカ120kg(以上)。 ラクト・バチルス 600グラム ※堆肥を安全に土中醗酵させ、通気・保水性のよい土壌にします。</p> <p>硫酸 60kg (砂地で堆肥が乏しい場合のみ、硫酸カリ 20kg追加) ※もし通常の複合肥料を使う場合は、チッソ成分で12kg程度。</p> <p>畑のカルシウム 60kg (酸性土壌なら80~100kg) ※カルシウム栄養の供給と、土壌酸性の中和も行います。 ※栽培中にpH5.5以下になると生育が悪く、また根コブ病も頻発しますので、万一酸性化が心配な場合は栽培途中にも畑のカルシウムを施して調節してください。 通常、根コブ病対策のために、pH:7.2程度にしておくことが推奨されていますが、7.0以上ではかえって充実が劣ります。普通の作物と同様に、6.0~6.5の範囲(高くても7.0迄)で、後半過度に酸性化させないことが重要です。 ※カルシウムの施用は 整地後、播種床土への散布でも構いません。</p> <p>上記4種を同時に散布して、畑土を耕します。 土に塊を残さないようにして、キレイに整地して下さい。</p> <p>※播種時には 土壌ECが 0.2 (以下) と、落ち着いていることが大事です。ECが0.5以上になると、根部裂開が多くなります。</p>
播種時	播種の直後、または播種直前の灌水時	濃縮酵素液 (500倍程度) 十分に灌水(散水)します。 ※直根を一斉に強く伸ばし、土壌病害・連作障害にも強くします。
間引き時	本葉1~2枚時、3~4枚時 (または生育が弱い時)	濃縮酵素液 500倍 葉上から灌水(散水)・根を伸ばし 生長促進 ※特に2回目の間引きで 株間をあけて1本立ちとした時には、しっかり土まで染み込むくらいに灌水して下さい。 ※間引き後の施肥(液肥)は 過繁茂になりやすいので、 <u>明らかに肥切れの場合 アミノ酸液</u> を散布する程度とします。
中期~後半	播種後20日、収穫前15日頃	カルテックCa液状 500倍 葉面散布・充実促進、葉軸強くチッソ過多を抑える。白サビ、ベトにも強くなる。 トンネル栽培では(特に換気不十分な時)軟弱徒長を防止。
収穫直後	間引き収穫の場合、2, 3番株のために	濃縮酵素液 500倍 葉上から灌水(散水)・根を伸ばし 生長促進

秋播き・秋冬穫り： 播種~収穫 40~70日。

秋冬播き・冬春穫り、トンネル・ハウス栽培： 播種~収穫 60~110日。

周年栽培

【品種】 洋種系：金町小カブ系統(球形・鮮白色)、和種系、紫カブ、紅カブ